

## 米軍統治下の村づくり

戦前の北谷では約8割が農業従事者でしたが、戦後は広大な平坦地は基地の用地として優先的に確保され、民間はその残りを利用する形になりました。そのことで農業は衰退し、多くの人が軍作業などの第三次産業へ従事しました。また、利用可能な土地が分断されたことで発展に不可欠な統合的な土地利用が非常に難しくなりました。

1953年(昭和28)以降、北谷村では基地接収による住宅地の不足から人口が伸び悩んでいました。1960年代後半には、玉上・吉原・桑江などの山間部地域が民間主導で宅地開発されました。また、浜川地先の埋め立てによる町域の拡張も図られました。村営住宅の建設もすすめられ、1971年(昭和46)6月に最初の村営住宅が栄口に完成し、1973年(昭和48)にはコザ市から北谷村東部をぬけ国道58号に接続する県道23号(国体道路)が開通しました。

## 振興計画とまちの発展

北谷村では、1972年(昭和47)に第一次振興計画(1972年～1981年)が策定され、長期的な展望の下に総合的なまちづくりがはじまりました。第一次振興計画では、基地経済から脱却した平和産業の自立を図る「商業観光住宅都市」を理想像として掲げました。道路・上下水道などがある程度整備され、市街地が拡大することで人口が急増し、1980年(昭和55)には町制へ移行しました。

第二次振興計画から第四次総合計画(1982年～2011年)では、米軍基地の整理・統合がすすみ、1981年(昭和56)ハンビー飛行場とメイ・モスカラ射撃訓練場が返還され、軍用地跡地の計画的利用が始まりました。1998年(平成10)には、返還をみこんでキャンプ・レスター内に役場新庁舎が建設されました。また、現在の美浜区にあたる桑江地先の大規模な埋め立てもおこなわれ、アメリカンビレッジ構想にもとづく美浜地区が誕生しました。コースタル・コミュニティ・ゾーン整備計画(CCZ)による西海岸の護岸や公園の整備などとともに、県内外から多くの人が集まる活気にあふれたまちとして発展をはじめました。

現在進行中の第五次総合計画(2013年～2021年)では、西海岸一帯の活性化と水産業の振興等を目指したフィッシャリーナ整備事業や、キャンプ桑江北側地区を職住近接型の賑わいと自然環境が調和した市街地の形成として桑江伊平土地区画整理事業が進められています。



北谷村第一次振興計画書